

関連する「つまずきポイント」

③語感や語彙を豊かにすること

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

語感や語彙を豊かにすること

に関するつまずき解消に向けた系統的な取組

明石市立魚住東中学校の実践

第3学年 語感や語彙を豊かにすること（慣用句・ことわざ）

第2学年 語感や語彙を豊かにすること（対義語）

第1学年 語感や語彙を豊かにすること（芸術作品の鑑賞文）

	身に付けさせたい力の系統	各段階におけるつまずき
第3学年	ことわざ・慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ、語感を磨き、語彙を豊かに生活の場で用いる。	ことわざ・慣用句など、複合的な語の意味を辞書で調べることや、文脈に即して選択・活用することができない。
第2学年	抽象的な概念を表す語句の意味を理解し、語感を磨き、語彙を豊かにすること。	抽象的な概念を表す語句の意味は理解できていても、それを文中で適切に使うことができない。
第1学年	語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨き、語彙を豊かにすること。	辞書の意味が複数ある場合、文脈に即した意味を選択することができない。

つまずき解消に向けた取組の視点

① 語彙力向上プリント「ことのは」の実施

- 毎授業、漢字の小テストに出題した語句を1～2個選び、各自で意味調べを行う。
- 週の最後の授業で、調べた語句8個の中から各自が3つ選択し、200字程度の物語を作成する。(原稿用紙の使い方に従う。時間は5分)
- 教師が評価・添削し、適切な使い方をしている良作を全体に披露する。
- 間違った使い方の文も示し、正しい使い方を全体で確認する。

② 全学年における「漢字テスト」の実施、「国語辞典」の常用

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

第1学年

語感や語彙を豊かにすること(芸術作品の鑑賞文)

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか?～

語彙が乏しいため、自分の考えを相手にわかりやすく表現することができない。

「とても」「きれい」「いい」などの形容詞や「～思う」の文末表現の多用。

私がこの絵を見て思ったのは、主役が『紅葉』と『夕暮れ』だということです。なぜなら、赤やオレンジ、黄色などの暖色が多く使われているからです。あと、もう一つ思ったことがあります。それは、寂しい感じだということです。なぜなら、この絵の中には、人間や動物が描いてないからです。

この絵は、紅葉や夕暮れなど、さつき書いたことを含め、とてもキレイでいい作品だと思いました。

実践の概要

単元名 芸術作品の鑑賞文を書こう！

『芸術作品の鑑賞文を書く』教育出版

目標 芸術作品を鑑賞し、自分が選んだ絵の魅力を鑑賞文で伝える。その過程で、類義語辞典や国語辞書、パソコンを使って類義語を調べ、言葉に対する興味をもち、語彙を増やす。

- 内容**
- いくつかの観点から絵を鑑賞し、絵の魅力を言葉にする(マッピングを書く)→マッピングの意見交流。
 - 鑑賞文を200字で書く。
 - NGワードを伝え、違う表現を辞書等で探し、推敲する。
 - 同じ作品を選んだ者同士で意見を交流する。
 - 推敲前と推敲後の印象に違いがあるかを考える。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容(単元名)		つまずきの実態
第3学年	言葉の小窓2	ことわざや慣用句など生活言語に興味・関心をもち、語彙を増やす意欲に乏しい。
第2学年	対義語辞典を作ろう！	語句や文、語彙などに興味をもち、主体的に調べ自らの表現活動にいかそうとする意識が低い。
第1学年	芸術作品の鑑賞文を書こう！	語彙が乏しいため、自分の考えを相手にわかりやすく表現することができない。

単元末の目指す姿

- 言葉の多様性や奥深さに気付くことができるようになる。
- 自分の語彙数の少なさに気づき、言葉に関心をもつことができるようになる。
- 辞書やパソコンを使って、意欲的に類義語を探すことができるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

類義語を調べる際に、どの言葉が作品の魅力や、自分が表現したいことに的確かを吟味させる。

活動のねらい▶ 辞書の内容を吟味し、表現することによって、言葉を理解し広げることができる。

ここが
ポイント

類義語辞典やパソコンを使い、たくさんの類義語があることに気付かせる。その中から、自分が表現したいことを的確に表している言葉を考え、選択することができるようにする。

表現したいことに適した言葉探し



「あたたかい」の類義語はどれかな？
どの言葉が一番ぴったりくるかな？

(期待される生徒の姿)

辞書やパソコンを使って調べたり、互いに話し合って類義語を出し合う中で、表現を豊かにすることのよさに気付くことができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

同じ視点から鑑賞文を書いた者同士でグループを作り、推敲させる。

活動のねらい▶ 同じ視点のグループにすることで、伝えたいことと表現の関連をより意識して推敲することができる。

ここが
ポイント

- 「自分の考えを表現するために、適切な言葉が用いられているか」という視点に沿って、言葉を吟味するように指示する。
- 検討する言葉について、複数の案を出し合い、それぞれから伝わる印象を話し合わせることで、言葉に対する意識を高める。
- 推敲後には、自分の文章を再度見直し、どのように印象が違うかを考えさせる。

グループでの推敲



似た意味でも、言葉が違
うと、伝えたいことの印
象が変わってくるなあ。

推敲後の方が、言葉の意味が深まって、
絵の魅力がよく伝わるね！

(期待される生徒の姿)

同じ絵を選んだ者同士で、意見交流を行うことで、違う意見に触れ、自分の表現の仕方を客観的に見直すことができるようになる。

語感や語彙を豊かにすること(対義語)

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

語句や文、語彙などに興味をもち、主体的に調べ自らの表現活動にかそうとする意識が低い。

「言葉の意識調査（2年生173名対象）」より

辞書を使って調べることは難しいし、面倒くさいなあ。
(41%)

辞書よりパソコンの方が簡単で、すぐ調べられるよ。
(58%)

辞書を使っても、対義語や類義語、用例まで読んだりしないよ。
(34%)

実践の概要

単元名

対義語辞典を作ろう！

『類義語・対義語・多義語・同音語』教育出版

目標 資料（主に国語辞典）を使って、対義語辞典を作成することを通して、言葉に対する興味をもち、語彙を増やしていく。

内容

- 各自担当の語句について、資料を使い「対義語」と「類義語」及び「意味」を調べる。
- 「用例」について各自が短文を作成する。 ・グループで推敲・校正を行う。
- 語句からイメージすることをイラストに描く。
- 「オリジナル対義語辞典」を作成し、読み合わせをする。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第3学年	言葉の小窓2	ことわざや慣用句など生活言語に興味・関心をもち、語彙を増やす意欲に乏しい。
第2学年	対義語辞典を作ろう！	語句や文、語彙などに興味をもち、主体的に調べ自らの表現活動にかそうとする意識が低い。
第1学年	芸術作品の鑑賞文を書こう！	語彙が乏しいため、自分の考えを相手にわかりやすく表現することができない。

単元末の目指す姿

- 目的に応じた資料（対義語辞典・類義語辞典など）を選択することができるようになる。
- 例文を考え、互いに推敲することで、新しく得た知識（言葉）を適切な使い方で表現しようとする意識ができるようになる。
- 辞書に対する興味が深まり、意味以外の対義語や類義語、用例までを意識し、自ら調べるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

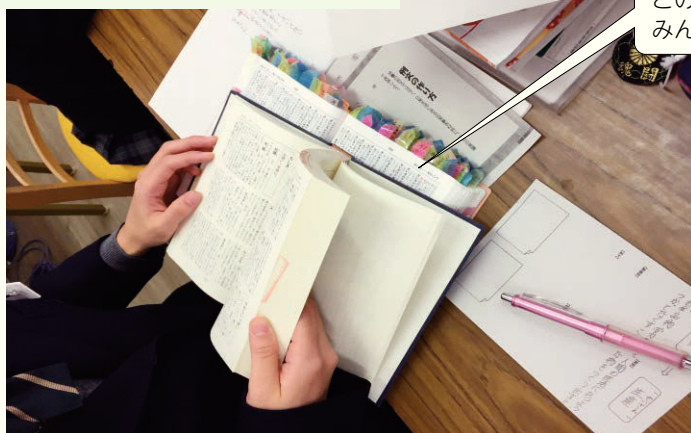
複数の資料を使い、より理解しやすい表現を考えさせる。

活動のねらい▶ 資料の内容を吟味し表現することによって、目的に合わせて必要な言葉を選択し、表現を考えることができる。

ここがポイント

1つの資料からそのまま書き写すのではなく、複数の資料を比べることによって、よりわかりやすい表現を考えさせる。そのために、学校図書館と公共図書館の団体貸出等を利用して、複数の資料を用意しておく。

複数の資料から表現を考える



どの辞書の意味がわかりやすいかな...?
みんなはどう思う?

(期待される生徒の姿)

資料（辞書など）によって、表現の仕方が違うことに気付くようになる。複数の資料を比較することによって、辞書に書かれている意味の理解が深まり、他者にとってもわかりやすい表現を考えることができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

★主体的な学びにつながる実践

- 自作の「用例」を4人班で推敲し、校正する活動を取り入れる。
- 各自の「語句のイメージ」を視覚化するためにイラストに表現する。

活動のねらい▶ 生徒同士で推敲し合う中で、より文脈に即した表現を意識することができ、自作の「用例」についても客観的に見直すことができる。
• イラストで表現し、それを説明する中で、自分が何を伝えたいのかが明確になり、伝えたいことに適した表現になっているかを考えながら話し合うことができる。

ここがポイント

- 用例の書き方は、事前に、他の語句を使った用例の見本プリントを用意する。
- 作成上のポイント＝①身近なテーマを題材にして書くこと、②主語と述語のある一文形式にすること、推敲のポイント＝①文中における語句の使い方が適切であるか、②主語・述語があり、文の形になっているか、③誤字・脱字はないか、④個人名を使っていないか、に沿って検討するよう指示する。

(期待される生徒の姿)

- 「用例」を推敲するために、4人で意見交換することによって、より文脈に即した使い方が考えられるようになる。
- イラストに表すことで、日常生活での言葉の使い方に対する意識が高まり、主体的な学びにつながる。

授業の様子



「AとBが相違する。」
は、おかしいよ。

「AとBが相違する点はCである。」
という形にした方がいいと思うよ。

語感や語彙を豊かにすること(慣用句・ことわざ)

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか?～

ことわざや慣用句など生活言語に興味・関心をもたず、語彙を増やす意欲に乏しい。

適切な語句を選択する：「白羽の矢が→立つ」（兵庫県正答率 54.6% 無回答率 0.9%）

→ 約半数の生徒が、上記の慣用句を知らない実態があった。

H28年度全国学力・学習状況調査（国語A9三才）より

ことわざや慣用句という言葉は知っていても、表現や意味を理解している生徒は少ない。また、表現や意味を知っていても、自分の文章や会話の中で活用できていない。ことわざや慣用句を使っていきたいという意識はあるが、どんな場面で使えばいいかわからない様子である。

実践の概要

単元名

言葉の小窓2

『慣用句・ことわざ』教育出版

目標 慣用句やことわざに関する知識を広げ、「伝統的な言語文化」の一部としての意味を知り、普段の生活の中に活用していけるよう、語彙を豊かにすること。

内容

- ・各自担当のことわざを決め、資料集や図書室などで意味や用例を調べる。
- ・ことわざの意味を理解した上で、それを絵で表現し、短作文を作る。
- ・班で互いに絵を見せ合い、どのことわざかを推測させる。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容（単元名）		つまずきの実態
第3学年	言葉の小窓2	ことわざや慣用句など生活言語に興味・関心をもたず、語彙を増やす意欲に乏しい。
第2学年	対義語辞典を作ろう！	語句や文、語彙などに興味をもち、主体的に調べ自らの表現活動にいかそうとする意識が低い。
第1学年	芸術作品の鑑賞文を書こう！	語彙が乏しいため、自分の考えを相手にわかりやすく表現することができない。

単元末の目指す姿

- ・ことわざを使うことによって、自分の思いを豊かにわかりやすく伝えることができると理解できるようになる。
- ・絵やふき出しを作ることで、ことわざを身近なものと感じられる。
- ・曖昧に覚えていたものや思い込みで使っていたものを正しく理解し、使えるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

複数の資料を使い、より理解しやすい表現を選択させる。

活動のねらい▶ 複数の資料の内容を比較・吟味し、それを用いて表現することで、理解の定着につなげることができる。

ここがポイント

- ① 便覧やことわざ辞典を使い、意味や由来を調べる。同時に同義のことわざや対義のことわざを知り、語彙を増やす。
- ② 短作文の推敲や絵の表現について、グループで意見交換する。
※必要に応じて、誤解した使われ方が多いことわざを提示し、本来の意味と「誤り」とを比較させる活動を取り入れる。

複数の資料の内容の比較



こっこの便覧の表現を使った方が、言いたいことがより伝わるんじゃないかな。

(期待される生徒の姿)

曖昧に覚えていたものや思い込みで使っていたものを正しく理解し、使えるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

絵とひと言ふき出しでことわざの意味を表現し、班で互いに推敲する活動を取り入れる。

活動のねらい▶ 生徒同士でアドバイスすることによって、意味を理解しにくい生徒も意欲的に取り組むことができる。

ここがポイント

- 事前に他のことわざを使った用例の見本イラストを用意しておく。
- 一目見てなんのことわざかわかるようシンプルな表現にするように指示をする。
- 短作文は主語・述語を入れることと、辞書や用例のままではなく、自分の体験や身近なことに置き換えて表現するように指示する。

授業の様子



このイラストで伝えようとしていることと、ことわざの意味や使い方は一致しているかな。

(期待される生徒の姿)

ことわざの意味を絵とひと言ふき出しで表現することによって、意味を可視化しやすくなり、ことわざの意味や整合性等、視点を明確にして推敲することができる。